

県営かんがい排水事業筑後東部第3期地区

埋蔵文化財調査概報 I

福岡県八女市大字忠見所在遺跡の調査概報

八女市文化財調査報告書 第57集



1999

八女市教育委員会

序

平成7年度から始めました県営かんがい排水事業筑後東部第3期に伴う埋蔵文化財発掘調査も今年で4年目となりました。本年度は八女市の忠見地区に所在する遺跡の発掘調査を実施し、奈良時代を中心とした遺構と遺物が発見されました。これまでの発掘調査によっても、貴重な遺跡や遺物が発見され、この地域の古代文化を考える上で大きな成果を上げています。

なお、発掘調査にあたりましては、筑後東部第3期土地改良区、八女東部土地改良区、地元町内会、福岡県教育委員会、福岡県筑後川水系農地開発事務所をはじめ、関係各位の多大な御協力に対し、心から感謝申し上げます。

平成11年3月31日

八女市教育委員会

教育長 樋口 欽一

例 言

- I 本書は平成10年度に八女市が国、県の補助を受けて実施した、県営かんがい排水事業筑後東部第3期に伴う発掘調査の調査概報である。
- II 県営かんがい排水事業筑後東部第3期に伴う発掘調査は、平成7年度より継続して進めているが、平成9年度までは県営担い手育成基盤整備事業八女東部地区内での調査であったため、八女東部地区埋蔵文化財発掘調査概報2、3、4に概要を収録している。
- III 発掘調査は八女市教育委員会が主体となり実施している。なお、出土遺物は岩戸山歴史資料館で保管している。
- IV 遺構の実測は、国土調査法第Ⅱ座標系を基準にしており、写真は担当者が主となって行った。
- V 本書の執筆は各遺跡の担当者が行い、編集は赤崎・山田が行った。

目 次

I はじめに	1
II 位置と環境	3
III 平成7年度から平成9年度までの調査の概要	6
IV 平成10年度調査の概要	11

表紙挿図 風流松遺跡6地点 溝出土「寺」刻書土器

I は じ め に

県営かんがい排水事業筑後東部第3期は、平成6年度より5年計画で始まった八女東部地区圃場整備事業に伴って実施されている。八女東部地区では、地区の中央部を東から西に主水源である山の井川が地区低位部を流れているため、適切な用水管理ができず、また、山間部からの排水が地区内に氾濫し、湛水被害がひんばんでもあったため、管理を容易にし、洪水をすみやかに山の井川に排水できるよう、平成6年度より平成11年までの6年計画でかん排水事業が計画された。かん排水路は1号から4号まであり、1号は本地区から東側に延び牟田集落の北西より南側に延びて山の井川に合流する。2号は立山集落の南より東側に延び1号に続く。3号は忠見地区から丘陵下を東側に延び立山集落の南側で2号に接続する。4号は立山集落南側から南側に延び忠見、井延、祈禱院に延びて星野川に合流する。

かん排水事業、および、圃場整備事業に伴って事業地内に埋蔵文化財の存在が予想されたため、事前に試掘調査を実施して埋蔵文化財包蔵地の把握につとめている。

平成6年度にはかん排水事業に伴う発掘調査はなく、圃場整備事業に伴って八女市平田地区を中心に3ヶ所の遺跡の調査を行った。

平成7年度は圃場整備事業のほかに、事業関連の山の井川河川改修工事に伴う調査も併せて実施した。地区は大字平田、大字黒土、大字本の3地区に及び、13ヶ所の遺跡の調査を実施している。かん排水事業に伴っては、大字本地区の1号かん排水路内で餅田遺跡、枕林遺跡、丁ノ坪遺跡を、2号かん排水路内で大門遺跡の計3ヶ所の調査を実施した。

平成8年度は圃場整備事業で調査の地区は大字平田、大字黒土、大字本、大字吉田、大字大島の5地区に及び、9ヶ所の遺跡の調査を実施した。かん排水事業に伴っては、大字本地区の2号かん排水路内で八反田遺跡1ヶ所の調査を実施している。

平成9年度は圃場整備事業で調査の地区は、大字黒土、大字本、大字忠見、大字吉田の4地区に及び、5ヶ所の遺跡の調査を実施した。かん排水事業に伴っては、大字本地区の4号かん排水路内で下大坪遺跡、大字黒土地区で風流松遺跡の一部の計2ヶ所の調査を実施した。

平成10年度は圃場整備事業に伴う調査を実施している。調査の地区は大字黒土、大字忠見、大字井延、大字宅間田、大字吉田の5地区に及び、5ヶ所の遺跡の調査を実施した。

かん排水事業の内、4号かん排水路は忠見地区から祈禱院地区までの間を計画されたが、用地買収等による遅れのため、排水路内での一部の調査しかできず、調査可能地点の試掘調査を実施したところ3ヶ所より遺跡が発見され、忠見・祈禱院地区の一部について本調査を実施した。

発掘調査は、平成10年7月28日より開始したが、現地での調査は平成11年3月8日に終了した。

(赤崎)

調査関係者は次のとおりである。

平成10年度 八女市教育委員会

教 育 長	樋 口 欽 一
教 育 部 長	石 松 憲 治
生 涯 学 習 課 長	大 隈 繁 敏
生涯学習課長補佐 兼社会教育係主任	下 川 文比古
文 化 財 係 長	赤 崎 敏 男 (調査担当)
文 化 財 係	中 川 寿賀子
文 化 財 係	大 塚 恵 治
文 化 財 係	森 田 尚 美
文 化 財 係 嘱 託	山 田 朗 子 (調査担当)

筑後東部第3期土地改良区

理 事 長	野 上 登
事 務 局 長	江 崎 国 雄
事 務 局 員	西 江 正 行
事 務 局 員	倉 員 順 子
事 務 局 員	内 野 恵美子

Ⅱ 位置と環境

平成10年度県営担い手育成基盤整備事業八女東部地区の計画された地区は大字黒土、大字忠見、大字井延、大字吉田、大字宅間田の5地区約25[〃]に及ぶ。この地区は、八女市の南北を結ぶ国道3号線の東側と西側地区で今年度の事業が進められた。地区の北側には八女丘陵が東西に連なり、丘陵上には国指定史跡の八女古墳群（岩戸山古墳、乗場古墳、善蔵塚古墳、丸山塚古墳、茶臼塚古墳、丸山古墳）の他、鶴見山古墳、釘崎古墳群、辻の西遺跡など、4世紀から6世紀にかけての筑紫君やその一族の古墳が築かれている。

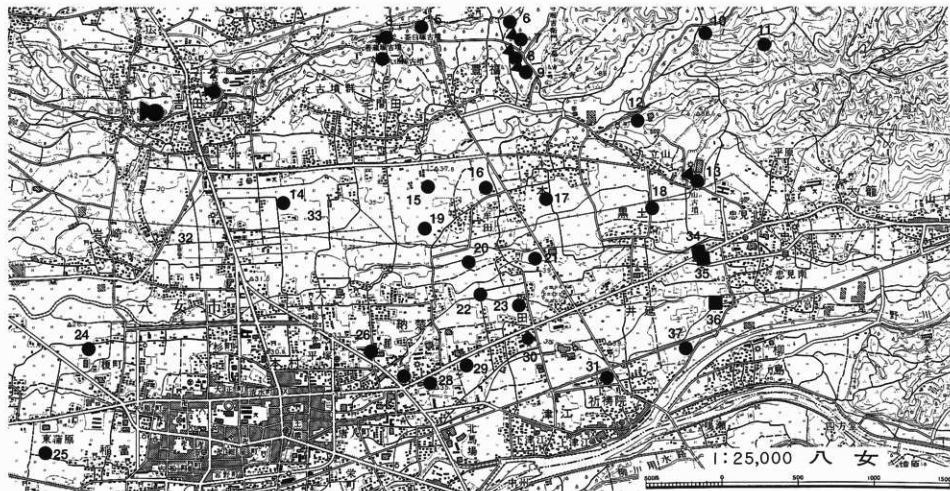
丘陵下の平野部からは平成6年度から平成9年度の発掘調査で縄文時代から歴史時代の遺跡が各所で発見されている。

平成6年度の調査で弥生時代の集落として六反田遺跡、北ノ前遺跡、墓地として野内遺跡、古墳時代の集落として野内遺跡が発見され、特に六反田遺跡は豪族居館の発見があり注目された。

平成7年度の調査では縄文時代の竪穴土壌、落し穴が大林遺跡、尺取遺跡、野ノ内遺跡、春田遺跡、永尾遺跡、千松遺跡、石仏遺跡で発見され、特に尺取遺跡からは石組炉とともに、多量の押型文土器が出土している。弥生時代の集落は発見されなかったが、西原遺跡から甕棺墓群が発見された。古墳時代の遺跡として口ノ坪遺跡、千松遺跡から4世紀から5世紀にかけての竪穴住居の発見があったが大規模な集落とは考え難い。歴史時代の遺跡としては尺取遺跡、大門遺跡、枕林遺跡、丁ノ坪遺跡、石仏遺跡から土壌や溝が発見された。特に石仏遺跡から中世居館と思われる井戸や溝が発見され、青磁などの輸入陶磁器も出土している。また、この地区には条里の痕跡や条里地名などが良く残っており長峰地区条里、福島地区条里、上表地区条里、忠見地区条里として知られている。

平成8年度の調査では縄文時代の竪穴土壌、落し穴が道手遺跡、枕林遺跡、八反田遺跡で発見され、特に道手遺跡からは落し穴が並んで発見された。弥生時代の集落として西原遺跡から中期と終末期の竪穴住居と甕棺墓74基が発見された。古墳時代の遺跡として西原遺跡から4世紀から5世紀にかけての竪穴住居と方形周溝墓の発見があったが大規模な集落とは考え難い。歴史時代の遺跡としては石仏遺跡から平成8年度の調査に続いて土壌や溝、井戸が発見され、中世居館と思われる。井戸や溝から、青磁などの輸入陶磁器も出土している。また、この地区には条里の痕跡や条里地名などが良く残っており長峰地区条里、福島地区条里の一部について調査を実施したが顕著な遺構、遺物は発見されなかった。

平成9年度の調査では縄文時代の竪穴土壌、落し穴が柳ノ内遺跡2次調査、野ノ内遺跡3次調査、下大坪遺跡、風流松遺跡、黒土・新替遺跡で発見され、特に風流松遺跡、黒土・新替遺跡からは落し穴が並んで発見された。弥生時代の集落として風流松遺跡から終末期の竪穴住居と掘立柱建物が発見された。古墳時代の遺跡として風流松遺跡から4世紀の竪穴住居の発見があった。歴史時代の遺跡としては平島遺跡から土壌や溝、井戸が発見されている。風流松遺跡と黒土・新替遺跡から、竪穴住居と掘立柱建物、土壌墓、溝、棧敷道、柵列が発見されており、特に3列発見された柵列は東西15間以上、南北5間以上もあり、柵内に掘立柱建物が存在している。また、遺物として軒先丸瓦、平瓦も出土している。（赤崎）



第1図 かんがい排水路調査地区と主な遺跡分布図 [1/25,000]

- | | | | | | | |
|-------------|------------|-----------|----------|--------------|------------|-----------|
| 1. 岩戸山古墳 | 2. 乗場古墳 | 3. 善蔵塚古墳 | 4. 丸山塚古墳 | 5. 茶臼塚古墳 | 6~9. 釘崎古墳群 | 10. 中尾谷窯跡 |
| 11. 三助山窯跡 | 12. 立山山窯跡 | 13. 丸山古墳 | 14. 道手遺跡 | 15. 餅田遺跡 | 16. 枕林遺跡 | 17. 大門遺跡 |
| 18. 八反田遺跡 | 19. 丁ノ坪遺跡 | 20. 西原遺跡 | 21. 尺取遺跡 | 22. 平田・六反田遺跡 | 23. 北ノ前遺跡 | 24. 惣津町遺跡 |
| 25. 一平遺跡 | 26. 万上田遺跡 | 27. 赤氏遺跡 | 28. 熊野遺跡 | 29. 高島遺跡 | 30. 後ノ江遺跡 | 31. 祈禱院遺跡 |
| 32. 下吉田地区条里 | 33. 長峰地区条里 | 34. 風流松遺跡 | 35. 明洲遺跡 | 36. 祈禱遺跡 | 37. 高野町遺跡 | |



第2図 県営かんがい排水路施行地区（南側より空撮）

Ⅲ 平成7年度から平成9年度までの調査の概要

平成7年度

1. 大門遺跡（おおもん）

- ① 所在地 八女市大字本字大門
- ② 調査期間 平成7年10月13日～平成8年10月18日
- ③ 調査面積 400㎡
- ④ 調査の概要

遺跡周辺は標高39m前後で水田として利用されていた。調査の結果、遺構としてわずかに直径約3mの円形の土壌1基が発見された。土壌内より発見された遺物は少ないが、8世紀前半の須恵器の完形品が出土した。

2. 餅田遺跡（もちだ）

- ① 所在地 八女市大字本字餅田
- ② 調査期間 平成7年12月14日～平成8年12月18日
- ③ 調査面積 280㎡
- ④ 調査の概要

標高36m前後の水田下より遺構が発見された。発掘調査の結果、東北から南西方向に向かって流れる自然の流路が検出された。流路の中より木材が多く見つかり、その中に一部加工の痕跡のある木材も含まれている。流路底付近より、縄文時代中期と思われる土器片もわずかながら発見されており、縄文時代の自然流路とも考えられる。

3. 枕林遺跡（まくらばやし）

- ① 所在地 八女市大字本字枕林
- ② 調査期間 平成8年1月22日～平成8年2月1日
- ③ 調査面積 600㎡
- ④ 調査の概要

遺跡は標高38m前後の水田下より発見された。発掘調査の結果、東北から南西方向に向かって流れる溝や半月形の溝、柱穴が発見された。幅10mの調査のため性格は不明である。出土遺物も少なく、東北から南西方向に向かって流れる溝から歴史時代の土器器が出土したにすぎない。

4. 丁ノ坪遺跡（ちょうのつぼ）

- ① 所在地 八女市大字本字丁ノ坪
- ② 調査期間 平成8年2月13日～平成8年3月8日
- ③ 調査面積 3,200㎡（かん排水路分約1,200㎡）
- ④ 調査の概要

餅田遺跡より約200m南に位置し、標高35m前後。調査の結果、溝状遺構11条、土礫6基、竪穴



第3図 平成7年度～平成10年度調査遺跡位置図 (1/8,000)

土壌 3 基が検出された。

○竪穴土壌

SX-01 長軸長4.6m、深さ60cm、長軸方向北西—南東。遺物なし。

SX-02 長軸長2.8m、深さ40cm、長軸方向北東—南西。遺物なし。

SX-03 長軸長4.2m、深さ56cm、長軸方向南—北。遺物なし。

○土壌

6 基検出。縄文時代のものが 1 基で、直径2.5m、深さ18～23cmの半円形である（SD-06に切られる）。鎌倉時代のものが 1 基で、直径1.1m、深さ17～22cmの楕円形である。奈良時代のものが3基で、直径はいずれも 3 m前後、深さは50cm前後である。奈良時代の土壌からは須恵器、鎌倉時代の土壌から糸切り底の皿が出土した。

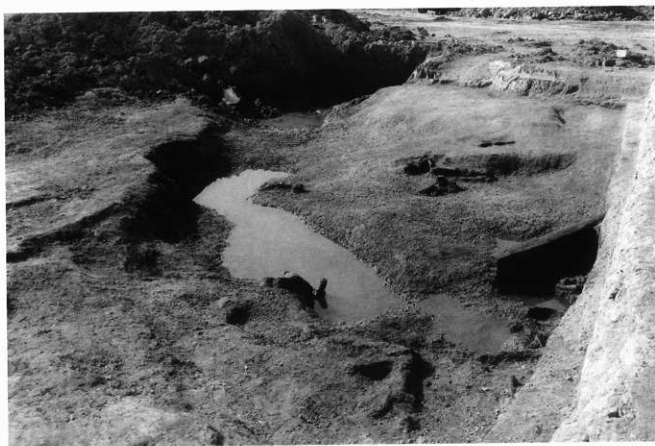
○溝

11条検出。4 条が東西方向に流れ、3 条が北西南東方向に、4 条が南北方向に流れている。遺物はほとんど出土せず、唯一SD-06より土器が出土した。

平成 8 年度

1. 八反田遺跡（はちたんだ）

①所在地 八安市大字本字八反田



第 4 図 餅田遺跡〔平成 7 年度調査〕（東より）

②調査期間 平成8年9月5日～平成8年9月19日

③調査面積 1,500㎡

④調査の概要

標高は41m前後。発掘調査の結果、縄文時代早期の竪穴土壌が5基、性格の不明な楕円、または不整形の土壌が十数基発見されている。遺構からの遺物は出土しなかったが、陶器の大皿片と、青磁片が表採された。

平成9年度

1. 下大坪遺跡（しもおおつぼ）

①所在地 八女市大字忠見字下大坪

②調査期間 平成9年7月23日～平成9年10月22日

③調査面積 700㎡

④調査の概要

標高43.4m前後。調査区中央で自然のくぼ地が東西に延び、北側には不整形の竪穴土壌が分布している。竪穴土壌の規模は大きいもので長軸6.05m、短軸5.65m、深さ7cmから54cm、小さいもので長軸1.88m、短軸0.94m、深さ10cmから254cmを計る。埋土を観察したところ、遺構外側から黒色土が流れ込み、中央は地山土である。遺物が全く出土していないため、時期、性格は不明で



第5図 枕林遺跡〔平成7年度調査〕（西より）

ある。

2. 風流松遺跡（ふうりゅうまつ）

- ①所在地 八女市大字忠見字風流松
②調査期間 平成9年7月30日～平成10年2月23日
③調査面積 6,200㎡（かん排水路分約1,300㎡）
④調査の概要

1 地点

標高44m前後の微高地上に位置している。1地点からは縄文時代から平安時代の遺構が見つかり、主に弥生時代終末から古墳時代前期までの集落が中心である。

2、3 地点

1地点の南側で標高44m前後。調査の結果縄文時代の落とし穴4基、竪穴土坑25基、8世紀後半から9世紀の規模の大きな柵列3条、掘立柱建物8棟以上、雨落ち溝1条、棧敷道1条、溝4条と多数のピットが検出された。

4 地点

3地点の南側にあり、山ノ井川が調査区の東西を流れる。標高は北側が42.7m前後、南側が43mから44m前後である。調査の結果、溝2条、近世と考えられるくぼ地が検出された。

Ⅳ 平成10年度調査の概要

平成10年度のかん排水事業が山の井川から南側で実施されたため、調査の地区は平成9年度に実施した風流松4地点の南側隣接地で、市道忠見92号線の北側と南側、国道442号線の南側及び、市道忠見92号線の北側で実施した。また、事業地内で買収の終了した地区については逐次試掘調査を実施しており、試掘調査を実施した県道湯田田～矢部線の北側と南側では、星野川の氾濫原が確認された。

1. 折譲遺跡（きじょう）

- ①所在地 八女市大字忠見字折譲
- ②調査期間 平成10年7月28日～平成10年8月21日
- ③調査面積 230㎡
- ④調査の概要

調査区は旧矢部線の北側に位置し、調査以前は菊栽培のハウス用地として利用されていた。標高は41m前後で、南に向かうにしたがい低くなる。表土を約60～120cm下げたところで遺構が発見された。

発掘調査の結果、土壌1基と約40個のビットと、炭化物の堆積が2ヵ所で検出された。土壌（SK01）の規模は長軸242cm、短軸142cm、深さ40～58cmを測り、平面プランは隅丸方形で、断面は逆台形である。埋土の中層より、炭化物と一緒に弥生時代中期頃の甕形土器がほぼ完全な形で出土した。また、底面からも同時代の甕形土器が出土した。

ビットの深さはすべて10～20cmと浅く、ほとんど削平されていることがわかる。また、住居の柱痕跡として成り立つものは確認できなかった。

炭化物の堆積は調査区の中央で2ヵ所確認された。40cm×30cmと178cm×98cmの範囲で、ほぼ楕円形に広がる。炭化物の厚みは5cm前後である。調査区の壁面土層もあわせて見てみると、調査区の中央部で南北3.8m前後の範囲に炭化物が堆積していることがわかった。

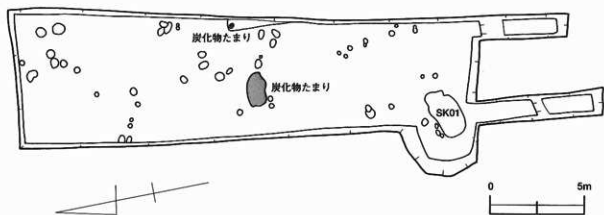
本調査区の地盤は砂質土で、氾濫が繰り返された結果と思われる。調査区の南は、旧河川の氾濫によってできた掘乱が見られる。（山田）



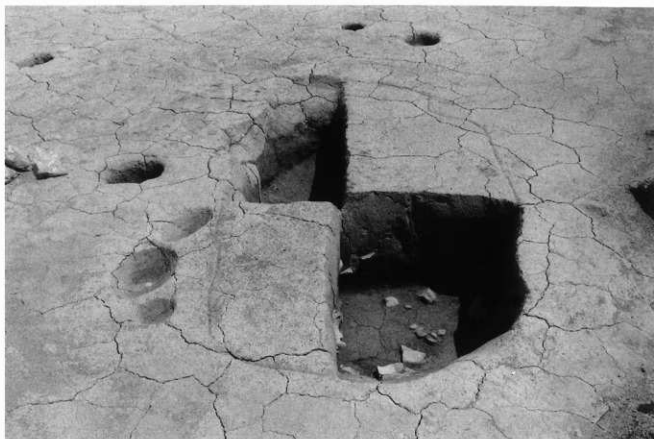
第6図 折譲遺跡全景（北東より）



第7図 折譲遺跡全景（南西より）



第8図 折譲遺跡遺構配置図〔1/200〕



第9図 祈 願 遺 跡 (SK01) (東より)



第10図 祈 願 遺 跡 (SK01) (東より)

2. 風流松遺跡（ふうりゅうまつ）6地点

- ①所在地 八女市大字忠見字風流松
②調査期間 平成10年11月4日～平成11年3月8日
③調査面積 420㎡
④調査の概要

6地点は4地点の南側隣接地で、付近の標高は約44m前後。調査は市道忠見92号線をはさんで、国道442号線までの範囲で実施した。調査を開始した結果、全体に大きく削平されていた。しかし、市道忠見92号線側に大規模な溝の一部が確認され、道路下にその中心部が来ることが判明したため、市道の迂回路をつくり、道路下の発掘を実施するという大規模な調査になった。

発掘調査によって発見された遺構は北東―南西方向に伸びた大溝で、長さは約10m分確認した。幅は7～8m前後、深さは現況で1.3m前後、北側の溝壁はほぼ垂直で、南側は緩やかに立ち上がる。溝内の土層堆積状況から大規模な削平や整地が行われた形跡が認められる。

溝内から多量の土器が発見されたが、上層部では細かな破片が多く、下層部分では完型品を含む大きな破片が出土している。遺物の種類として土器類が多く須恵器、土師器をはじめ大型土甕などの土製品、鉄製品が出土している。出土品の中で、特に溝底付近から出土した土師器杯の内側に「寺」と宛書きされたものもあり、遺跡の性格を考える上で貴重な発見である。出土遺物の時期は8世紀後半から10世紀前半にかけてのものである。（赤崎）



第11図 風流松遺跡6地点発掘前全景（北より）



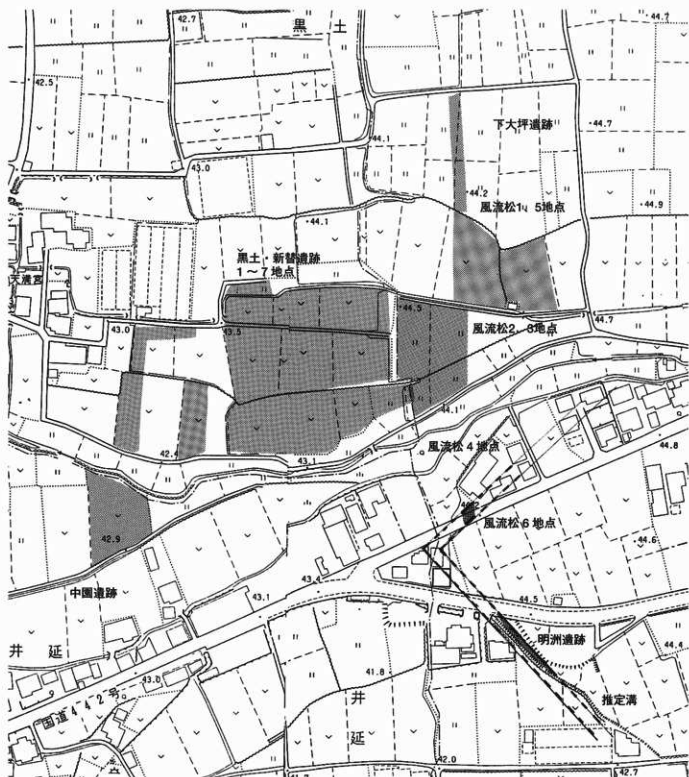
第12図 風流松遺跡6地点(南より)



第13図 風流松遺跡6地点(北より)



第14図 平成9,10年度調査遺跡(南上空より)



第15図 平成9・10年度調査遺跡と風流松遺跡6地点、明洲遺跡溝推定図 (1/2,500)



第16図 風流松遺跡 6 地点〔SD03〕(南より)



第17図 風流松遺跡 6 地点〔SD03〕(東より)



第18図 風流松遺跡 6 地点 (SD03) 土器出土



第19図 風流松遺跡 6 地点 (SD03) 土器出土

3. 明洲遺跡（あけす）

- ①所在地 八女市大字忠見字明洲
②調査期間 平成10年11月26日～平成11年2月17日
③調査面積 230㎡
④調査の概要

明洲遺跡は風流松遺跡の南側隣接地で、付近の標高は約44.5m前後。すぐ南側とは2.5m以上の比高差がある。調査は国道442号線の南側部分で、周辺より約1.5m程下がった部分を実施した。調査を実施した結果、全体に大きく削平されていた。しかし、調査区の北東側に大規模な溝の一部が35m以上にわたって確認され、国道を越えて北西方向に伸びることが判明した。南東側は1m以上の比高差と調査区域外のため不明である。

発掘調査によって発見された遺構は北西－南東方向に伸びた大溝で、長さは35m分確認した。幅は不明であるが8m前後はあると考えられる。深さは現況で1.5m前後、西側の溝壁は不明であるが、東側は緩やかに立ち上がる。溝内の土層堆積状況から大規模な整地が行われた形跡が認められ、上層の部分に幅1m程の石敷の通路が残っていた。

溝内から多量の土器が発見されたが、上層部では細かな破片が多く、下層部分では完型品を含む大きな破片が出土している。遺物の種類として土器類が多く、須恵器、土師器をはじめ大型土錘などの土製品も多く出土している。出土品の中で、特に甕片の出土が多くみられる。出土遺物の時期は8世紀後半から10世紀前半にかけてのものである。（赤崎）



第20図 明洲遺跡全景（北より）



第21図 明 洲 遺 跡〔SD01〕(南より)



第22図 明 洲 遺 跡〔SD01 北側〕(南より)

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう							
書名	埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ							
副書名	福岡県八女市大字忠見所在遺跡の調査概報							
巻次	第1分冊							
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第57集							
編著者名	赤崎 敏男 山田 朗子							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	〒834-8585 福岡県八女市大字本町647 TEL 0943-23-1111							
発行年月日	西暦 1999 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村：遺跡番号	北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	
ありよう 祈禱遺跡	福岡県 八女市大字忠見 字祈禱	402109	33°12'50"	130°35'40"	19980728- 19980821	230㎡	かんがい 排水路 建設事業	
ふりかへつ 風流松遺跡 6地点	八女市大字忠見 字風流松		33°13'05"	130°35'40"	19981104- 19990308	420㎡		
あけす 明洲遺跡	八女市大字忠見 字明洲		33°13'00"	130°35'40"	19981126- 19990217	230㎡		
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
祈禱遺跡	集落跡	弥生時代	土壇 ビット		弥生式土器			
風流松遺跡 6地点	寺院跡？	奈良時代 平安時代	溝 柱穴		須恵器 土師器 土製品			
明洲遺跡	寺院跡？	奈良時代 平安時代	溝		須恵器 土師器 土製品			

埋蔵文化財調査概報 I

福岡県八女市大字忠見所在遺跡の調査概報

八女市文化財調査報告書

第 57 集

平成11年3月31日

発行 八女市教育委員会

福岡県八女市大字本町647

印刷 アオヤギ株式会社

福岡市中央区渡辺通2丁目9-31